

No. 875

走 れ ! 10 キ ロ

—神 奈 川—

藤沢・鎌倉間10キロを平均時速25キロの速さで走る江の電、明治35年の創業で私鉄としては、日本で三番目に古いという。一時は赤字に悩み、営業中止の声も出たが、今では立派に立ち直り、観光線としての面目をほどこしている。車両も少なく、わずか8編成の電車が、単線上をフル運転している。

車窓からは、風光明媚な江の島を望み、またある時は、家並すれすれに走り抜けるオンボロ電車、だが、古さが古都の人々に慕しまれているのだろうか。

未 来 の 農 業

—東京・栃木—

政府の150万屯減反政策も失敗に終り、今年もまた、お米が倉庫にねむる。

頭の痛い農林省は、「米は他作物への転換」についての基本構想のなかで、5年計画で48万ヘクタールを転作の方向へ促進させようとしている。3年前、農林省は、日本の未来の農業を考えて、「農業者大学校」を東京都南多摩郡多摩町に設置した。優れた農業者を育成せんとして設立されたこの大学校には、現に農業に従事している農村青年約100人が学んでいる。三年生は在宅実習としてレポートをまとめる。中山富夫君もその一人だ。約2ヘクタールの水田と0.8ヘクタールの畑。栃木県矢板にある彼の家の農地は水利が悪い。彼は、兼業農家が多い中で、農業一本で營んでいくには、どうすれば良いかを真剣に今考えている。養豚。これが米造りと併行してやっていける唯一の方法だと考えた。彼は今、養豚の勉強に余念がない。

日本の農業の未来は、これまでのよう、ただ、泥と汗にまみれて働く農民から、考える農民にゆだねられている。農業者大学校はその意味では重要な立場に立っているのだ。